

科目名	基礎看護技術Ⅱ	担当講師	友松恵里（看護師） 成吉章江（看護師） 廣田美和子（看護師）					
開講年次	1年生前期	単位数	1単位					
授業形態	講義・演習	時間数	30時間＋試験1時間					
学習目的	対象が安全・安楽に過ごせる日常生活援助技術を学ぶ。							
学習目標	1. 原理・原則に基づいた日常生活援助技術の基礎を理解できる。 2. 安全・安楽を基本とし、対象に応じた看護について考え、実践できる。 3. 対象に応じた基本的欲求を満たすため、根拠に基づいた生活援助の技術を習得できる。							
授業計画・内容	日程	学習目標	単元の具体的な内容	担当教員			学習形態	評価
	月 日			友松	成吉	廣田		
	4/14	活動・休息援助技術・苦痛の緩和・安楽確保の技術	ボディメカニクス：体位変換、移動動作（車椅子、ストレッチャー）	2			講義・演習	ワークシート 提出状況
	4/28		ポジショニング（安楽な体位の調整）	2				
	5/1		電法・体温調節の援助、安楽の促進・苦痛の緩和のケア	2				
	5/1	食事援助技術	食事介助、経管栄養法		2			
	5/7		経管胃チューブの挿入と管理		2			
	5/12		経管栄養の管理		2			
	5/12	排泄援助技術	自然排尿および自然排便の介助	2				
	5/14		排泄援助技術（床上排泄、おむつ交換）	2				
	5/21		膀胱留置カテーテルの挿入と管理	2				
	5/21		浣腸・排便	2				
	5/26		清潔援助（清拭・足浴・手浴）		2			
	5/28	清潔・衣生活援助技術	清潔援助（洗髪）		2			
	6/2		清潔援助（洗髪）		2			
	6/4	病床での衣生活の援助			2			
	8/25	筆記試験（50分）	※100点満点の試験を50点に換算する。	筆記試験（友松教員30点・成吉教員20点・廣田教員50点）				
8/27	基礎看護技術Ⅱ 技術試験	日常生活援助技術試験：対象に看護を提供する場面設定し試験を実施する。	専任教員					
			合計	10	6	14		
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）・技術試験 配分：ペーパーテスト50点 技術試験50点（成吉教員30点、廣田教員50点、友松教員20点／100点←50点へ換算） 100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。							
教科書	系統看護学講座 専門分野	基礎看護学〔2〕	基礎看護技術Ⅰ	医学書院	第18版			
	系統看護学講座 専門分野	基礎看護学〔3〕	基礎看護技術Ⅱ	医学書院	第17版			
参考図書								
事前学習・事後学習 （授業時間外の学習）								
関連科目	解剖生理学 人間と教育	臨床治療論Ⅰ 倫理の入門	生活と物理 各専門分野につながる	薬理学 微生物学	人間と倫理 看護学総論			
備考 （学生へのメッセージ）								

科目名	基礎看護技術Ⅲ	担当講師	成吉章江（看護師） 植田聡子（看護師） 海藤望（看護師）				
開講年次	1年生前期	単位数	1単位				
授業形態	講義・演習	時間数	30時間＋試験1時間				
学習目的	対象に適切な看護が実施できる診療の補助技術について学ぶ。						
学習目標	1. 対象が安全・安楽に診療を受けられるための診療補助技術を習得できる。						
授業計画・内容	日程 月日	教育内容	単元	担当教員 成吉 海藤 植田	学習形態	評価	
	6/4	呼吸・循環を整える技術	酸素療法、排痰ケア	2	講義・演習	ワークシート 提出状況	
	6/4	症状・生体機能管理技術	検体(尿・血液等)の取り扱い、検査の介助	2			
	6/11	呼吸・循環を整える技術	体温管理、末梢循環促進ケア(体位ドレナージ・電法)演習	2			
	6/18	創傷管理技術	創傷管理の基礎知識	2			
	6/18		創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)技術演習	2			
	6/23	与薬の技術	与薬の基礎知識、与薬のための援助技術(与薬法)	2			
	6/30		注射の援助技術①	2			
	7/7		注射の援助技術②	2			
	7/16		注射の援助技術③	2			
	9/22	輸血援助技術	輸血援助技術	2			
	10/14	救命救急処置技術	救命救急の基礎知識	2			
	10/14		BLS演習	2			
	7/16	静脈血採血	静脈血採血	2			
	7/16	静脈血採血	静脈血採血	2			
	10/27	基礎看護技術試験	創処置・包帯法・体位ドレナージ 技術試験	技術試験			技術試験50点
10/16	筆記試験(50分)	※100点満点の試験を50点に換算する。		筆記試験50点			
				合計	12	6	12
成績評価方法	終講試験(ペーパーテスト)・技術試験 配分：ペーパーテスト50点〔成吉教員40点、海藤教員20点、植田教員40点／100点←50点に換算〕・技術試験50点 100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。						
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 第18版 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 第17版						
参考図書							
事前学習・事後学習 (授業時間外の学習)							
関連科目	解剖生理学 倫理の入門 臨床治療論Ⅰ 生活と物理 薬理学 微生物学 人間と倫理 看護学総論 人間と教育 各専門分野につながる						
備考 (学生へのメッセージ)							

科目名	問題解決活用法 I	担当講師	成吉章江（看護師）
開講年次	1 年生前期	単位数	1 単位
授業形態	講義・演習	時間数	1 5 時間（試験 1 時間含）
学習目的	科学的な問題解決法を使用した思考過程を活用し、看護の目標を達成するための方法を学ぶ。		
学習目標	1. 理論に基づく看護過程について理解できる。 2. 問題解決技法の基礎的知識を習得できる。		
授業計画・内容	回数	授業計画	備考
	第 1 回	1. 看護過程の概念と構成要素を理解する	
	第 2 回	2. 看護の思考過程を理解する	
	第 3 回	3. 理論枠組みに沿ってアセスメントする方法を理解する	
	第 4 回	4. 看護過程演習	
	第 5 回	5. 看護過程演習	
	第 6 回	6. クリティカルシンキングについて理解する	
	第 7 回	7. まとめ	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 ※演習参加の姿勢・提出物も評価の参考にします。		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 I 医学書院 第18版		
参考図書			
事前学習・事後学習 (授業時間外の学習)	事例に基づく疾患学習、看護過程		
関連科目	解剖生理学 臨床治療論 I 生活と物理 薬理学 微生物学 人間と倫理 看護学総論 人間と教育 倫理の入門 各専門分野につながる		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	臨床看護総論 I	担当講師	友松恵里 (看護師)	
開講年次	1 年生後期	単位数	1 単位	
授業形態	講義	時間数	20 時間 + 試験 1 時間	
学習目的	各看護学に通ずる経過・治療別看護の方法と看護の対象者について学ぶ。 看護に活用する医療機器の原理と実際を学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実践のためにこれから学ぶ内容について理解できる。 2. 対象のライフサイクルや療養の場における健康上のニーズが理解できる。 3. 各経過・治療の特徴と対象の心理と援助方法が理解できる。 4. 医療機器の原理と取り扱いの基本的な方法が理解できる。 			
授業計画	回数	担当教員	授業計画	備考 (準備・予習・復習など)
	第 1 回	友松恵里	医療機器について 医療ガス・設備について 医療ガス供給・アウトレットについて 酸素吸入心電図・吸引装置・吸入療法 について講義	パソコン (パワーポイント)
	第 2 回		輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器・人工呼吸器について講義・演習	パソコン (パワーポイント)
	第 3 回		①周術期看護の説明 ②手術の映像及び鉗子類を見ながら解剖等説明 ③ガウンテクニック (時間があれば)	PC、レーザーポイント、スクリーン
	第 4 回		周手術期 (術前・中・後)	
	第 5 回		健康状態の経過に基づく看護 (回復期)	
	第 6 回		健康状態の経過に基づく看護 (慢性期)	
	第 7 回			
	第 8 回			
	第 9 回		健康状態の経過に基づく看護 (終末期)	
	第 10 回			
成績評価方法	終講試験 (ペーパーテスト) を行い 100 点を満点とし、60 点以上を合格とし評価します。 ※演習参加の姿勢も評価の参考にします。			
教科書	基礎看護学 [4] 臨床看護総論 第 7 版			
参考図書	呼吸ケア メディカ出版			
関連科目	生活と物理 基礎看護技術 病理学総論 解剖生理学 薬理学 医療安全など、各健康段階における看護につながる			
備考 (学生へのメッセージ)	医療器材の原理を知り、原理原則 (ポイント) をおさえ臨床に使える看護技術を学んでほしい。 また、各健康段階を踏まえた看護について学んでほしい。			

科目名	臨床看護総論Ⅱ	担当講師	成吉章江（看護師） 友松恵里（看護師） 海藤望（看護師）	
開講年次	1年生後期	単位数	1単位	
授業形態	講義	時間数	20時間＋試験1時間	
学習目的	主要症状について、科学的根拠に基づいた看護実践の方法を学ぶ。			
学習目標	1. 症状のメカニズムを基盤にアセスメントの視点や看護援助の根拠が理解できる。			
授業計画	回数	担当教員	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	成吉	1. 主要な症状における臨床看護の視点	
	第2回	友松	2. 主要な症状を示す対象者への看護 1) 呼吸に関連する症状 ・呼吸困難 ・チアノーゼ	
	第3回	友松		
	第4回	友松		
	第5回	成吉	2. 主要な症状を示す対象者への看護 2) 循環に関連する症状 ・血圧低下・ショック	
	第6回	成吉		
	第7回	成吉		
	第8回	海藤	2. 主要な症状を示す対象者への看護 3) 認知・知覚に関連する症状 ・意識障害	
	第9回	海藤		
第10回	海藤			
成績評価方法	<p>終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 配分：成吉教員40点、友松教員30点、海藤教員30点 ※演習参加姿勢・提出物も評価の参考にします。</p>			
教科書	基礎看護学〔4〕臨床看護総論 第7版			
参考図書				
関連科目	生活と物理 基礎看護技術 病理学総論 解剖生理学など、各症状における看護的視点を学ぶ			
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	地域・在宅看護論目的対象論	担当講師	南 智美（看護師）
開講年次	1 年生前期	単位数	1 単位
授業形態	講義	時間数	1 5 時間（試験 1 時間含む）
学習目的	地域・在宅看護論の対象を理解できる。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らしている人々の生活を理解する。 2. 生活と健康に関わる動向を理解する。 3. 生活と健康を支えるケアを理解する。 4. 地域で暮らす人々の生活を支えるしくみを理解する。 5. 地域・在宅看護の基本となる倫理を理解する。 		
授業計画	回数	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第 1 回	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の人々の生活と健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域とは 2) 地域における生活と健康 	
	第 2 回	<ol style="list-style-type: none"> 2. 動向 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口・世帯と健康に関する動向 2) 医療・介護提供体制の方向性 	
	第 3 回	<ol style="list-style-type: none"> 3. 生活と健康を支えるケア <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療・介護・福祉ケア 2) 地域看護の理念 地域共生社会、アドボカシー、ノーマライゼーション プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワメント	
	第 4 回	<ol style="list-style-type: none"> 4. 地域・在宅看護を支える制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護を支える介護保険制度 2) 在宅看護を支える医療保険制度 	
	第 5 回	<ol style="list-style-type: none"> 5. 地域・在宅看護の倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理の原則 2) 看護と倫理的問題および予防と解決 	
	第 6 回	訪問看護に行ってみよう	
	第 7 回	まとめ	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 ※演習参加姿勢も評価の参考にします。		
教科書	地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護論の基盤 第6版		
参考図書			
関連科目	看護の基礎である基礎看護学をもとに、「生活者としての理解」につながるこの科目をこれから学ぶ専門分野の理解につなげる。		
備考 (学生へのメッセージ)			

科目名	成人看護学目的・対象論	担当講師	友松恵里（看護師）	
開講年次	1年生後期	単位数	1単位	
授業形態	講義	時間数	30時間＋試験1時間	
学習目的	現代の保健医療福祉における社会の動向と、成人期の身体的・精神的・社会的特徴をふまえ、様々な健康レベルにある人々の健康問題とその看護の役割について学ぶ。			
学習目標	1. 成人看護の対象と、その発達段階、成人各期の特徴が理解できる。 2. 成人各期の健康上の問題が理解できる 3. 成人期の疾患構造と成人保健活動が理解できる。 4. 成人に対する保健医療政策が理解できる。 5. 成人期における看護アプローチについて理解できる。			
授業計画	回数	担当教員	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	友松恵里	1. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2. 健康をおびやかす要因と看護 1) 生活行動がもたらす健康問題とその予防 3. 生活と健康 1) 生活と健康を守りはぐくむシステム 4. ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションと看護 2) ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 1. 成人の特徴 1) 身体的・精神的・社会的 2) 成人の生活 GW(成人各期における三側面の特徴) 成人期の発表・まとめ 2. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3) 人々の集団における調和や変化を促すアプローチ 4) チームアプローチ 5) 看護におけるマネジメント 6) 意思決定支援 3. 健康をおびやかす要因と看護 1) 健康バランス構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 1) 健康の急激な破綻 2) 急激な健康破綻をきたした人の看護 5. 健康生活の面性的な揺らぎの再調整を促す看護 1) 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 2) 慢性的との共存の過程を支える看護 事例展開 6. 人生の最期のときを支える看護 1) 終末期医療における概念 2) 人生最後のときを過ごしている人の理解 まとめ	
	第2回	友松恵里		
	第3回	友松恵里		
	第4回	友松恵里		
	第5回	友松恵里		
	第6回	友松恵里		
	第7回	友松恵里		
	第8回	友松恵里		
	第9回	友松恵里		
	第10回	友松恵里		
	第11回	友松恵里		
	第12回	友松恵里		
	第13回	友松恵里		
	第14回	友松恵里		
	第15回	友松恵里		
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。			
教科書	成人看護学〔1〕成人看護学総論 第16版			
参考図書				
関連科目	国民衛生の動向 関係法規			
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	老年看護学目的・対象論 (概論)	担当講師	成吉章江 (看護師) 植田聡子 (看護師)	
開講年次	1 年生前期	単位数	1 単位	
授業形態	講義・演習	時間数	30 時間 + 試験 1 時間	
学習目的	人口の高齢化に伴う目まぐるしい社会の変化に目を向け、老年期にある対象の特徴、高齢者とその家族の健康とQOLを高める看護の機能と役割を学ぶ。			
学習目標	1. 老年者の身体的、精神的、社会的変化を知り、ライフステージとその健康課題を理解できる。 2. 超高齢社会における保健・医療・福祉の課題を理解できる。 3. 高齢者の権利擁護とその制度が理解できる。			
授業計画	回数	担当教員	授業計画	備考 (準備・予習・復習など)
	第1回	植田聡子	高齢者のイメージ、加齢と老化	老年看護学 老年病態・疾患論
	第2回	植田聡子	高齢者の理解、加齢に伴う変化	老年看護学 老年病態・疾患論
	第3回	植田聡子	発達段階の理解	老年看護学 老年病態・疾患論
	第4回	成吉章江	超高齢社会の統計的輪郭 ①人口②世帯③健康状態・死亡④暮らし	老年看護学 2 章 国民衛生の動向第2編、3編
	第5回	成吉章江	高齢者の尊厳と人権擁護 (身体拘束、虐待、成年後見制度と日常生活自立支援事業)	老年看護学2章
	第6回	成吉章江	超高齢社会における保健医療福祉システム (地域包括ケアシステム、医療制度、介護保険制度)	老年看護学2章 国民衛生の動向第4編、5編
	第7回	成吉章江		
	第8回	成吉章江	高齢者の健康づくり、ヘルスプロモーション、治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護	老年看護学9章、5章 国民衛生の動向第3編、5編
	第9回	植田聡子	高齢者体験	
	第10回	植田聡子	高齢者体験から老年看護をまとめる	
	第11回	植田聡子	老化と身体 (生理的・身体的・精神的特徴) 高齢者のアセスメント	老年看護学 老年病態・疾患論
	第12回	植田聡子	急性疾患に付随する症候	老年看護学 老年病態・疾患論
	第13回	植田聡子	慢性疾患に付随する症候	老年看護学 老年病態・疾患論
	第14回	植田聡子	ADL低下に合併する症候	老年看護学 老年病態・疾患論
第15回	植田聡子	国家試験対策		
成績評価方法	終講試験 (ペーパーテスト) を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。 配分: 成吉講師40点、植田教員60点 ※提出物の内容・提出状況を一部評価点に加えます。			
教科書	老年看護学 老年病態・疾患論		老	
参考図書	国民衛生の動向			
関連科目				
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	小児看護学目的・対象論	担当講師	海藤望（看護師）	
開講年次	1年生後期	単位数	1単位	
授業形態	講義	時間数	30時間＋試験1時間	
学習目的	小児看護学の意義・目的・機能と役割・特徴・小児保健の動向を知り、小児看護学の対象を理解する能力を養う。（疾患を持つ対象及び家族も含む）			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと家族が置かれている状況と最善の利益を守るかかわりについて理解できる。 2. 子どもの成長・発達が理解できる。 3. 発達段階による子どもと家族への支援について理解できる。 4. 日本と世界の母子保健の動向について理解できる。 5. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護について理解できる。 			
授業計画	回数	担当教員	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	海藤望	小児看護の特徴と理念	小児看護の対象・目標と役割 諸統計からみた子どもと家族の健康課題 小児医療看護の変遷
	第2回		小児看護の特徴と理念	小児看護における倫理 子どもの権利 小児看護の課題
	第3回		子どもと家族を取り巻く社会資源	保健・医療・福祉施策の活用 母子保健施策の活用
	第4回		子どもの成長発達	子どもの身体全体の評価・発達評価の方法
	第5回		子どもの成長発達	2～5章
	第6回		子どもの成長発達	2～5章
	第7回		子どもの成長発達	2～5章
	第8回		病気・障害を持つ子どもと家族の看護 子どもの状況に特徴づけられる看護	総論1・2章
	第9回		子どもにおける疾病の経過と看護	総論3章
	第10回		子どものアセスメント	総論4章
	第11回		症状を示す子どもの看護	総論5章
	第12回		検査・処置を受ける子どもの看護	総論6章
	第13回		障害のある子どもと家族の看護	総論7章
	第14回		子どもの虐待と看護	総論8章
	第15回		授業のまとめ	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。			
教科書	小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児科臨床看護総論			
参考図書	国民衛生の動向			
関連科目	人間と教育・心理と行動・栄養学			
備考 (学生へのメッセージ)				

科目名	母性看護学目的・対象論	担当講師	河野弘美（助産師）
開講年次	1年生後期	単位数	1単位
授業形態	講義	時間数	20時間＋試験1時間
学習目的	母性の対象はリプロダクティブヘルスタイツの概念により広くとらえ、健全なライフサイクルを送る為の看護の知識・技術・態度を養う。		
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の概念を把握し、母性の特徴を理解し、母性看護の意義と役割が理解できる。 生命と倫理について考え、生命誕生に関わる看護者としての倫理観が理解できる。 母性の健康維持強化を理解し、また、健康を傷害した対象の看護についても理解できる。 		
授業計画	回数	授業計画	備考（準備・予習・復習など）
	第1回	現代社会における母子及びその家族が抱える問題について	情報収集を基に現状を明らかにする
	第2回	現代社会における母子及びその家族が抱える問題について	
	第3回	母性看護の変遷 母子保健統計の動向・母子看護に関する組織と法律	
	第4回	母子保健に関する施策	
	第5回	母性看護の場と職種 母性看護の対象を取り巻く環境 まとめ	
	第6回	母性看護の概念 人間の性・繁殖	
	第7回	母性とは 父性とは	
	第8回	母子関係と家庭発達、母性看護のあり方	
	第9回	生命倫理と看護倫理 看護における倫理的意思決定	
	第10回	女性のライフサイクルと健康・看護	
成績評価方法	終講試験（ペーパーテスト）を行い100点を満点とし、60点以上を合格とし評価します。グループ学習点も評価に加えます。		
教科書	母性看護学〔1〕母性看護学概論 第14版		
参考図書	国民衛生の動向		
関連科目	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ		
備考 (学生へのメッセージ)	自ら考え自分の意見が述べられるようになってほしい		